

2015年度 第2回ロードレース委員会 議事録 【ダイジェスト版】

開催月日： 2015年11月16日（月） 午前10時45分～午後5時
開催場所： 東京・中央区 MFJ 会議室

I. 開催状況

1. 全日本選手権

当初予定されていた筑波大会が、鬼怒川決壊に伴い、中止となり全8戦の開催状況が報告された。

(単位：人)

	観客数	エントリー 台数合計	JSB1000	ST600	J-GP2	J-GP3
1大会あたり平均台数	20,469	84	35	30	22	29
前年対比 (%)	103%	90%	102%	82%	90%	84%

2. 地方選手権

全国7地方選手権（8会場）で開催された10月までの27レースの参加状況では、総参加台数は、減少傾向で推移している。

- ・ ナショナル、インタークラスとも公認クラスの総参加台数は横ばい。

JSB1000クラスは、ナショナル、インターともに増加しているが、J-GP3クラスは、減少傾向。

地方選の承認クラスの参加台数は、一般市販車 250cc 車両を使用する「ST250、CBRCUP」によって増加傾向で推移している。

3. MFJロードレースライセンス発行状況

10月末日現在のロードレースライセンス発行状況は、前年比3%増、内訳は、ロードレース国際ライセンス継続者以外は、すべて、新規、継続ともジュニア、フレッシュマン、国内と取得者は増加している。

ロードレースライセンス増は250クラスの活性が要因と思われる。

II. 全日本選手権 シリーズランキング報告

1. 全日本選手権シリーズランキング表が提出し承認された。

2. 2016 ワイルドカードの募集について

- 1) 2016 MotoGP 日本グランプリもてぎ大会 moto2、moto3 クラスワイルドカードは、クラスごと最大2名の選抜基準を以下のとおりとする。

- ① 公募内容：参加条件（年齢、参戦費用）およびマシンの準備することのできるチーム、選手からの公募制とし、FIMに申請を行う。

- ② 複数の申請の場合

FIMから申請者の優先順位を要望された場合は、以下の基準を適用する。

- ・2016年全日本選手権当該クラス第4戦 SUGO 大会までのランキング成績上位者

moto2クラスは、J-GP2クラス成績順

moto3クラスは、J-GP3クラス成績順

- 2) アジアロードレース選手権

- ・SS600クラス

ワイルドカード申請は、ロードレース国際ライセンス所持者のフリーエントリーとする。

募集数を超えた場合は、下記の優先順位を適用する。募集数は、ARRC の決定後にアナウンスする。

・ 優先順位

ア) 2015 全日本選手権 ST600 クラスランキング順

イ) その他 (上記にて該当者のなき場合は別途審議を行う。)

・AP250 クラス

ワイルドカード募集については、鈴鹿サーキットに選抜のガイドライン提案を検討する。

Ⅲ. 主要競技カレンダー

1. 世界選手権

世界耐久選手権 8 時間耐久 7 月 31 日 鈴鹿サーキット
M o t o G P 10 月 16 日 ツインリンクもてぎ

2. 国際選手権

FIM アジアロードレース選手権 6 月 5 日 鈴鹿サーキット

3. 全日本選手権

会議の修正箇所あり

	日程	大会	開催クラス				MFJCUP	備考
			JSB	JGP2	ST600	J-GP3	JP250	
第1戦	4月10日	筑波大会		◎	○	○	○	JGP2決勝2レース
第2戦	4月24日	鈴鹿2&4	○					200km(セミ耐久)
第3戦	5月29日	もてぎ	○	○	○	○		
第4戦	6月12日	オートポリス	○	○	○	○	○	
第5戦	6月26日	SUGO	○	○	○	○	○	120マイル(セミ耐久)
第6戦	8月21日	もてぎ2&4		○			○	
第7戦	9月11日	オートポリス2&4	○					
第8戦	9月25日	岡山国際	○	○	○	○	○	
第9戦	11月6日	MFJ-GP鈴鹿	◎	○	○	○	○	JSBのみ2レース
全9戦		クラス開催数	7	7	6	6	6	
		大会数	8	8	6	6	6	

◎ 決勝 2 レース

Ⅳ. 審査委員長、セーフティーオフィサー報告 (Rd5~Rd9) と変更点

1. 各大会の競技運営状況が報告された。

2. 来年のレースディレクションの変更点と方針

2016 年に向けての変更点

- ① ペナルティーポイント決定および管理は、セーフティーオフィサーの専任事項とする。
- ② ペナルティーポイントの対象は土曜日、日曜日としART走行は含まない。
- ③ ペナルティーポイントの積算表は、次大会の掲示板に公示される。
- ④ ペナルティーポイントが発生した場合、リザルトに記載し、セーフティーオフィサーも競技結果に署名する。
(リザルトに間に合わない場合は、公式通知発表)
- ⑤ ペナルティーポイントの対象は、レース関連事項とし、レース以外のことは、施設、組織委員会、または

審査委員会にて罰金等の対応とする。

例：スクーターパス、人パスの不正使用など

⑥ レースディレクションミーティングの実施

土・日曜日の審査委員会まえに短時間のレースディレクションミーティング実施し、運営の状況を議事録に残し、競技監督、セーフティーオフィサーの署名を入れる。

⑦ ペナルティーポイントの改定

ペナルティー 4 の罰則改定

内容	現行規則	変更点
ペナルティーポイント4	次大会の予選時のベスト5タイム抹消	10グリッド降格

⑧ ペナルティーポイント 危険行為 2) 青旗に関する妨害行為に関する記載の変更

28 項 2) 「レース中の青旗に意図的に従わず後続車にラップされることを妨げる行為」を以下に変更
「レース中の青旗提示中に意図的に後続車にラップされることを妨げる行為」とする。

3. 2016 年セーフティーオフィサー体制について

セーフティーオフィサー活動報告について作業部会および本委員会の審議を経て、次年度のセーフティーオフィサー判断を迅速に正確に行う上で、菅野委員、亀谷長純氏 (dep.) の 2 名体制を維持することが承認された。

V. 2016 全日本選手権の運営について

1. ST600 のタイヤ使用本数と予選方式について

(1) タイヤ使用本数の再考

提案：全日本選手権 ST600 は、予選、ウォームアップ、決勝の使用本数を 2 セット。

ただし、タイヤサプライヤーの特別販売価格で購入できる本数は、1 大会あたり 2 セットまで

結論：全日本選手権については、「予選、ウォームアップ、決勝まで」の使用本数は 2 セットに変更する。

ただし、タイヤサプライヤーの特別販売価格で購入できる本数は、1 大会あたり 2 セットまでとする。

(2) 予選方式と予選時間設定

提案：予選方式については、Q1、Q2 方式の継承、および新 Q1/Q2 方式 (Q1 30 分 計時後 5 分インターバルのち Q2 (トップ 12 名に絞り込み))

結論：予選は、計時予選で行い、最低時間は、J-GP3、J-GP2 に合わせる。

最低時間：予選落ちがない場合：35 分 予選落ちがある場合：40 分

2. 2016 年 JSB1000 のセミ耐久について

JSB1000 セミ耐久については、作業部会での審議提案と鈴鹿 2 & 4 大会については決勝 200km レースとして開催提案が提出され、合わせて審議を行った。

主な概要 予定：

	鈴鹿 2 & 4 大会	SUGO 大会
距離	200km (35LAP)	120 マイル (51LAP)
ライダー	1 名もしくは 2 名	1 名もしくは 2 名
ピットインと給油	1 回/8 耐久規則に順ずる	1 回/8 耐久規則に順ずる

結論：

- ・ ポイントメリットについては、SUGO、鈴鹿大会ともに以下のとおりとする。
通常のポイントにボーナスポイント 10P を付与。2 名の場合は、同ポイントを付与。
ただし、2 名体制の場合、主催者が定める最低周回数を達成できないと通常ポイントおよびボーナスポイントは付与されない。
最低周回数の目安：周回数の 20% を目安とする。
SUGO51 周の場合 10 周末満、鈴鹿 35 周の場合 7 周末満はポイントが付与されない。
国内競技規則には、ポイント付与の記載のみで他は特別規則で対応する。

3. 全日本選手権 もてぎ大会および MFJGP の予選方式について

モビリティランド ツインリンクもてぎより、JSB1000 クラスのノックアウト予選方式について変更提案が提出された。提案内容は、今年のもてぎ大会、MFJGP で実施した「トップ 10 サバイバル方式」の統一した予選方式

・ 提案内容

第 1 セッション …全車出走 上位 3 名は第 3 セッション進出決定 1 1 位以降は順位決定)
第 2 セッション …第 1 セッション上位 4 ~10 位出走 7~10 位が決定)
第 3 セッション …第 1 セッション上位 3 台 第 2 セッション上位 3 名出走 1~6 位順位決定)

結 論：

トップ 10 サバイバルのフォーマットは、承認された。

Q1 の時間設定については、現行規則に適用するように修正し、Q3 予選結果に伴う賞金設定
・タイヤ使用本数も含めて最終案を委員会あてに提出してもらう。

国内競技規則書には、セッション回数と進出台数は大会特別規則によると記載を行う。

4. MFJGP の JSB1000 の決勝周回数について

モビリティランド 鈴鹿サーキットより、以下の提案について審議された。

- | |
|---|
| ・決勝レース 1 の周回数 8 周 (路面変化にともなう減算は行わない。)
・決勝レース 2 は 20 周の設定提案がなされた。 |
|---|

結 論：提案は承認された。

5. 全日本選手権 筑波大会の J-GP2 クラスの予選方式と決勝レース

日本オートスポーツセンター (筑波サーキット) より標記の内容の提案について審議された。

- | |
|---|
| ・J-GP2 の決勝 2 レースの実施
・J-GP2 の予選方式 (スーパーポール方式) の実施 |
|---|

結論：土曜日の集客を強化し、魅力をアップさせるうえで、J-GP2 クラスの土曜、日曜日の決勝 2 レース制およびコース特性を生かした「スーパーポール方式」の提案について、了承された。
具体的な予選方法および賞金については再検討となった。

6. 全日本選手権 併催 MFJCUP JP250 について

前回のロードレース委員会にて審議してきた内容について、格式、クラス、ポイントスケールについて確認を行い、JP250 のタイヤサプライヤーが、住友ゴム（ダンロップ）に決定したことが報告された。

今までの決定事項

名称 : MFJカップ JP250 開催クラス : インター JP250 (国際ライセンス所持者) : ナショナル JP250 (ジュニア、国内ライセンス所持者) ポイント : ポイントスケールは、地方選手権ポイントを採用し、インター、ナショナルの 各出走台数を背景に 20p からインター、ナショナルおのおののクラス別に最大 15 名付与。		
MFJCUP	参加資格	ポイント (地方選スケール)
インターJP250	国際	着順と出走台数に応じて 国際ライセンスのみポイント付与 (全戦フルポイント)
MFJCUP ナショナル JP250	ジュニア フレッシュマン 国内	着順と出走台数に応じて 国内、ジュニアライセンスのみ ポイント付与 (フレッシュマンなし) 全戦フルポイント
地方選手権とのダブルタイトルで開催し、CUPと地方選ポイントは同一となる。 運営形態 : 1 DAY開催 (予選、決勝) 基本は 土曜日開催 レース形態 : インター JP250、ナショナル JP250 クラスの混走レースは可能とする		

ワンメイクタイヤ

担当会社 : 住友ゴム工業株式会社 期間 : 2016・2017 (2年間)

DRY	F	SPORTMAX α -13SP 新製品 (α -13 相当)	110/70R17
	R	SPORTMAX α -13SP 新製品 (α -13 相当)	140/70R17・150/60R17
WET	F	DUNLOP RACING KR189	110/70R17
	R	DUNLOP RACING KR389	140/65R17

- ・タイヤは、 α 13 後継の新規タイヤを投入し、来年は、アジアロードレースの AP 250 も同一タイヤを使用する。
- ・エントリーメリットとしては、MFJ カップ、地方選手権全大会参戦ライダーにフロント 1 本無償提供し、優勝者に副賞としてタイヤ 1 セット提供する。
- ・PR 的には、BS 12 チャンネルで 2 戦を 1 回にして年 3 回放映予定であることが報告された。

運営形態の確認

- 1) エントリー : エントリー用紙とエントリー代と期間は、施設決定とする。

2) 参加台数の多い場合の対策

当面は、1クラスで決勝を行う。

予選落ちが発生する場合は、ライセンス区分（インター、ナショナル）に関係なく、予選結果に基づいて決勝進出者を決める。

3) MFJCUP のスケジュール

1日制で予選、決勝を行うが、前日のスポーツ走行設定は主催者による。

4) 表彰式

暫定表彰は、インタークラスとナショナルクラスに別々で行う。

7. 全日本プロモーションについて

主要プロモーション事業についての継続提案に対し、基本的に了承を得て、詳細は来年早々に会合を行い、詳細をつめることになった。

継続事業

- 1) TV BS12
- 2) MFJ LIVE チャンネル
- 3) YOUTUBE
- 4) HP : Superbike.jp / fb : MFJSuperbike
- 6) ファンクラブ サポーターズ
- 7) J-GP3 ユースカップ
- 8) 年間パスの製作

VI. 2016 競技規則変更について

以下の内容について、国内競技規則書の変更内容が承認された。

・変更部分のみ記載

(1) ウォームアップ開始 3 分前、1 分前の行為について

17-4-6 ウォームアップラップ開始 3 分前ボード

グリッド上で 3 分前のボードが掲示される。

以下 中略

スペアホイールを除く全てのタイヤウォーマー（グリッドに着いているマシンおよびピットのスペアマシン）は取り外さなくてはならない。

17-4-7 ウォームアップラップ開始 1 分前ボード

グリッド上で 1 分前のボードが掲示される。（エンジンスタート）

メカニックはライダーが押しがけするのを助け、その後速やかにグリッドから退出する（車検で許可された外部スターターの使用が認められる）。

以下の規則を改定する。

① ピットのスペアマシンのウォーマーの取り外し

「~~スペアホイールを除く全ての~~グリッド上のマシンのタイヤウォーマー（グリッドに着いているマシンおよびピットのスペアマシン）は取り外さなくてはならない

② メカニックは、スタンドを取り外し、ライダーが押しがけするのを助け、その後速やかにグリッドから退出する（車検で許可された外部スターターの使用が認められる）。

(2) 赤旗中断されたレースの再スタート時の修理の解釈

マシンの修理の定義

24 赤旗中断されたレースの再スタート

レースが再スタートされる場合、再スタートはコースコンディションが許すかぎり速やかに行われなくてはならない。ライダーがピットに戻りしだい、競技監督は新たなスタート時刻を発表する。このスタート時刻は状況が許すかぎり赤旗が掲示されてから30分以内に設定される。

24-1 競技結果が2周以下の場合の再スタートには下記が適用される。

24-1-1 全ライダーがスタートできる。

24-1-2 **マシンの修理・給油ができる。**

マシンの修理に「タイヤ交換」がどのような判定になるのか審議し、「修理」はタイヤ交換、部品交換、セッティング変更可という解釈として以下の通り改定する。

「マシンの**セッティング変更、部品、タイヤ交換（タイヤ本数規定に抵触する場合は不可）**を含む修理、作業および給油を**行うことができる。**」 24-2-4 項も同様に改定する。

その他

・ J-GP2 クラスの重量変更について

7月の委員会時に提案のあった重量の変更に関して、岡山大会にて、J-GP2 マシンとライダー重量（装備込）の計測を行い、来年のJ-GP2クラスのライダーを含むマシンのトータル重量220kgへの変更が承認された。

・ JSB1000ホイール規則の変更について（2017 予告事項）

2017年から世界耐久選手権においてタイヤの17インチ化およびホイール材質に関して変更が決定し、JSB1000クラスも2017年から同規則に合わせ、来年は予告事項と規則書に記載することが報告された。

・ ART 提案

1) 決勝グリッドの入場制限について

グリッド上の安全性と観客からライダー、マシンが見やすいように、さらに無資格者のグリッドの立入りなどの対策として、人数制限の提案を受け、以下のとおり対応することになった。

- ・ 1 エントラントあたり、グリッドに入れる人数を5名に限定する。同一クラスに2台以上の場合は、別途対応する。キャンギャルのパス購入者は、グリッド5名以外に対応する。
- ・ スポットエントリー者、サポートメーカーなどは、施設対応とする。

2) 年間エントリー者の欠場の扱いについて

- ・ 怪我の除く欠場回数は、1回までと改定する。

3) トップエントラントチームから年間エントリーの欠場などの罰則

年間エントリー時にエントリー料免除対象のエントラント（選手）の欠場などに対し、罰則に関して法整備することが決まり、ARTで原案を作成しロードレース委員会にて審議することになった。

4) MFJGPのエントリー料について

ポイント取得者のみ参加できる最終戦のエントリー料金が後払いのため、参加意志、参加義務の解釈があいまいであり、誤解を招かないためにも、エントリー時にMFJGP分も含めた全戦分徴収し、ポイントが取

得できないものに対し、ART から返還するシステム変更することが承認された。

VII. 地方選の普及対策

1) JP250 の車両規則案について

小澤アドバイザーから JP250 車両規則の内容および規則考え方、規則背景が説明され、了承された。

2) 昇格ポイント設定について

JP250 クラスの「ジュニアから国内ライセンス」および「国内から国際ライセンス」への申請昇格のポイント設定についてレベルの均一化について審議し、以下の方針の上、11 月 25 日までに MFJ 事務局に連絡することになった。

考え方：開催数によるが、現行の ST600、JSB1000 の昇格ポイントよりおおむね 10 ポイント程度高めの設定を方針とすることが決まった。

3) ST600 (ST600R) クラスのブリヂストンタイヤの申し込み方法の確認

今年、全日本選手権で採用したタイヤ申し込みフォームを各施設にエクセルデータを配布し、選手権ごとに必要箇所を修正し、各施設の HP よりダウンロードして、エントリー時に申し込めるよう方法で行うことが了承された。

VIII. その他

事務局より下記の内容が説明された。

1. ロードレース特別昇格・降格に関する審議方法の変更について

審議方法の流れが了承された。

2. MFJ 中部ロードレース委員会議事録

ST600 のタイヤ規制と JP250 規則に関して要望が提出された。

3. スポーツ安全保険の改定について

65 歳以上の掛け金変更と補償金額の変更が説明された。

以上